



院長
伊藤 真理子
プロフィール

真理子先生の

女性のどカク

高プロラクチン血症

●（いとう・まりこ）1986年山形大学医学部卒業。山大病院、篠田病院を経て2005年6月に真理子レディースクリニックを開業。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医。

若いのに月経不順や無月経が続いたり、赤ちゃんもいないのに母乳が出る——こんな場合は「高プロラクチン血症」という状態が疑われます。

プロラクチンの働き

プロラクチンというのは脳の下垂体から分泌されるホルモンです。射乳ホルモンとも呼ばれ、授乳期間中に赤ちゃんに乳首を刺激されると分泌が増え、母乳の出を促す働きをします。

一方で授乳期間中は卵巣の働きを抑える働きもあります。つまりこの期間中は妊娠させないようにする自然の摂理なので

しょうね。

過剰になると母乳が！

このプロラクチンの血中濃度が授乳期間でもないのに異常に高い状態が高プロラクチン血症で、冒頭に挙げたように月経不順や無月経が続く、あるいは赤ちゃんがいないのに母乳が出るといった症状を「無月経乳汁漏出症候群」と呼びます。

原因は腫瘍や薬？

原因は様々ですが、プロラクチンの血中濃度が異常に高い場合は脳下垂体に良性腫瘍があり、頭痛や視野が狭くなると

いった症状が表れることもあります。

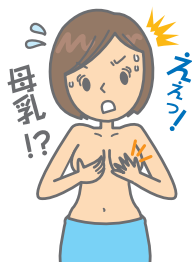
また服用している薬が原因のこともあります。胃薬や吐き気止め、抗うつ薬や抗精神病薬など神経に働きかける薬などが該当するようです。気付かず不安になられる方も多いです。薬剤情報書には目を通しましょう。

飲み薬で治療

治療はプロラクチンを下げる飲み薬を使うことがほとんどですが、腫瘍が大きい場合は手術治療になることもあります。服用している薬が原因の場合は元の病気と折り合いをつけながら治療して

いくことになります。

血液検査で異常がなくても同じ様な症状があれば「潜在性プロラクチン血症」として治療が必要です。



〈産婦人科〉

真理子レディースクリニック

☎023-632-0666 山形市小姓町6-35

●診療時間

【平日】午前/8時30分～12時

午後/14時～17時

【土曜】午前/8時～12時

●休診日

日・祝祭日

木・土曜日は午後休診となります。

